

アンケート用紙(介護事業所用)

☐ 本調査への回答に同意する ☐ 本調査への回答に同意しない

貴事業所の所在地(〒)

問1. 貴施設・事業所の開設主体をお答えください。

1. 都道府県
2. 市区町村
3. 広域連合・一部事務組合
4. 独立行政法人
5. 医療法人
6. 医師会
7. 看護協会
8. 公益社団・財団法人(6、7 以外)
9. 一般社団・財団法人(6、7、8 以外)
10. 社会福祉協議会
11. 社会福祉法人(社会福祉協議会以外)
12. 農業協同組合及び連合会
13. 消費生活協同組合及び連合会
14. 営利法人(会社)
15. 特定非営利活動法人(NPO)
16. 1～15 以外の法人
17. 個人

問2. 貴施設・事業所の種別をお答えください。

※運営基準に看護師配置がある場合(訪問看護を除く)

【介護保険施設】

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 介護老人福祉施設 | → 問 3-1 へ |
| 2. 介護老人保健施設 | → 問 3-1 へ |
| 3. 介護医療院 | → 問 3-1 へ |

【居宅サービス事業所】

- | | |
|----------------|-----------|
| 4. 訪問入浴介護 | → 問 3-2 へ |
| 5. 通所介護 | → 問 3-2 へ |
| 6. 通所リハビリテーション | → 問 3-2 へ |
| 7. 短期入所生活介護 | → 問 3-1 へ |

8. 短期入所療養介護 → 問 3-1 へ
9. 特定施設入居者生活介護 → 問 3-1 へ

【地域密着型サービス事業所】

10. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 → 問 3-2 へ
11. 地域密着型通所介護 → 問 3-2 へ
12. 認知症対応型通所介護 → 問 3-2 へ
13. 小規模多機能型居宅介護 → 問 3-1 へ
14. 地域密着型特定施設入居者生活介護 → 問 3-1 へ
15. 複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護) → 問 3-1 へ
16. 地域密着型介護老人福祉施設 → 問 3-1 へ

問3. 入所(居)者数、利用者数

問3-1. (問2で1～3、7～9、13～16を選択した場合) 貴施設の定員及び入所(居)者数についてお伺いします。

(令和 7 年 7 月 1 日時点)

(1) 定員数: 人 (2) 入所(居)者数: 人

問3-2. (問2で4～6、10～12を選択した場合) 貴事業所のサービス利用者数についてお伺いします。

(令和 7 年 7 月)

(1) 実人数: 人 (2) 延べ利用者数: 人

問4. 貴施設・事業所の看護職員数を教えてください。

《看護職員》

看護師、保健師、助産師、准看護師を指す。

《常勤》

当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数(32時間を下回る場合は32時間を基本)勤務している者。同一の事業者によって当該事業所に併設される事業所の職務であって、当該事業所の職務と同時並行的に行われることが差し支えないと考えられるものについては、勤務時間の合計で常勤の要件を満たすものとする。

《専従(＝専ら従事する、専ら提供に当たる)》

原則として、サービス提供時間帯を通じて当該サービス以外の職務に従事しないことをいうもの。この場合のサービス提供時間帯とは、当該従業者の当該事業所における勤務時間をいうものであり、当該従事者の常勤・非常勤の別は問わない。

《常勤換算方法》

当該事業所の従業者の勤務延時間数(※)を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数(32時間を下回る場合は32時間を基本)で除することにより、当該事業所の従業者の員数を常勤の従業者の員数に換算する方法。

※ 勤務延時間数：

勤務表上、当該事業に係るサービスの提供に従事する時間又は当該事業に係るサービスの提供のための準備等を行う時間(待機の時間を含む。)として明確に位置づけられている時間の合計数。なお、従業者1人につき、勤務延時間数に算入することができる時間数は、当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき勤務時間数が上限となる。

	常勤			非常勤	
	専従(人)	兼務(人) (専従分除く)	常勤換算数 (人)	非常勤 (人)	常勤換算数 (人)
看護師					
准看護師					

問5. 貴施設・事業所の看護職員について、常勤とみなす1週間の所定労働時間を教えてください。

[]時間 []分

問6.以下の質問について教えてください。

問6-1. 看護職員の常勤者、非常勤者において、2024年度(2024年4月～2025年3月)の時間外勤務の1か月あたりの平均時間をお答えください。

常勤者 1か月あたり [] 時間(平均値)

非常勤者 1か月あたり [] 時間(平均値)

問6-2. 看護職員の常勤者、非常勤者において、2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間で取得できた年間休日総数は、平均でどのくらいですか？ 本調査の休日の定義に則り、回答ください。

常勤者 年間 [] 日(平均値)

非常勤者 年間 [] 日(平均値)

*** 休日の定義**

【含める休日】

- 週休日: 毎週の固定休日(例: 土日)、またはシフト制における非勤務日
- 国民の祝日: 祝日として定められている日
- 年次有給休暇: 労働基準法に基づき付与され、取得した有給休暇
- 夏季休暇・年末年始休暇: 医療機関が定めている夏季・年末年始の特別休暇
- 慶弔休暇・リフレッシュ休暇などの特別休暇: 医療機関が定めているその他の特別休暇
- 代休・振替休日: 休日出勤の代わりとして取得した休日
- その他、勤務を要しない日: 上記以外で、事前に勤務が免除されている日(例: 生理休暇など)

【含めない休日(長期の休業)】 以下の長期にわたる休暇は、年間総休日日数には含めないでください。

- 育児休業: 育児のために取得した長期の休暇
- 介護休業: 家族の介護のために取得した長期の休暇
- 病気休職(長期): 傷病により長期にわたって取得した休暇(例: 休職扱いとなるような期間)

【注意点】

- 病欠(短期の欠勤)は含みません。
- 半日単位で取得した休暇は、2 回で 1 日と換算してください。

問7. 2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間における短時間勤務制度の利用人数を教えてください。

1) 法律で定められた短時間勤務制度の利用状況

2024 年度(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)の 1 年間に、「育児・介護休業法に基づく短時間勤務制度」を利用した看護職員の実人数をお答えください。

(※年度中に一度でも利用していれば「1 人」とカウントしてください。延べ人数ではありません。)

1. 育児短時間勤務 …… □□ 人
2. 介護短時間勤務 …… □□ 人

※複数制度を利用した職員がいる場合は、重複しないよう 1 名として計上してください。

2) 施設・機関独自で導入している短時間勤務制度の有無

次のうち、当てはまるものを選択してください。

☐ 施設・機関独自の短時間勤務制度がある ☐ 施設・機関独自の短時間勤務制度はない

3)施設・機関独自の短時間勤務制度の利用人数

(※設問 7-2)で「ある」と回答した場合のみ)

2024 年度(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)の 1 年間に、
施設・機関独自の短時間勤務制度を利用した看護職員の実人数をお答えください。

- 施設・機関独自短時間勤務制度の利用者数 …… □□ 人
(※年度中に一度でも利用していれば 1 人とカウント)

4)短時間勤務者の勤務時間

2024 年度に短時間勤務制度(法律・施設・機関独自の双方を含む)を利用した看護職員について、年度中の
「主たる勤務時間」に最も近い区分の人数をお答えください。

- 週 30 時間未満 …… □□ 人
- 週 30～34 時間未満 …… □□ 人
- 週 34～37 時間未満 …… □□ 人

問8. 常勤者の看護職員で、以下の制度を利用した看護職員の実人員数を教えてください。

2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間で育児休業を取得した看護職員の人数: []人

2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間で介護休業を取得した看護職員の人数: []人

2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間で病気等を理由に休職した看護職員の人数: []人

問9. 看護職員の夜勤体制について教えてください。

問9-1. 貴施設・事業所では、看護職員の夜勤は行われていますか？

☐ はい ☐ いいえ

問9-2. (問9-1 で「はい」と回答した場合)夜勤はどのような体制で行われていますか？(複数回答可)

☐ 2 交替制 ☐ 3 交替制 ☐ 変則 2 交替制 ☐ 夜勤専従 ☐ オンコール体制 ☐ その他(自由記述):

問9-3. 問9-2で「2 交替制」「3 交替制」「変則 2 交替制」「夜勤専従」と回答した場合

- ・以下の働き方改善の項目について、貴施設・事業所の達成状況（選択肢：達成状況（1）達成済み（2）未達成（3）該当なし（2 交代あるいは 3 交代夜勤体制なしで回答ができない、看護補助者を雇用しておらず回答できない場合に選択）を選択してください。
- ・A1、B1～14 では、業務未達成の場合、達成のために必要と考えられる人員の増員数（常勤換算値）をご記入ください。
- ・C1では、業務達成の場合、削減できたと思われる人員数（常勤換算値）をご記入ください。
- ・A1、B1～14、C1において、変化がない場合には「0」、わからない場合には、未記入のままで構いません。
- ・選択理由や懸念点等がある場合には、ご自由に記載ください。

		達成状況	未達成の場合の増減人数（常勤換算値）	【任意回答】 理由、ご意見（選択理由、懸念点等）
A. 労働時間短縮				
1. 月あたりの時間外勤務を平均 10 時間以内に抑制	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
B. 勤務シフト・体制の改善				
1. 11 時間以上の勤務間隔の確保	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
2. 勤務拘束時間を 13 時間以内に抑制	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
3. 正循環の交代周期の確保（3 交代または変則 3 交代のみ）	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
4. 夜勤の連続回数が 2 連続（2 回）まで	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
5. 暦日の休日の確保	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
6. 早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
7. 夜間を含めた各部署の業務量の把握・調整するシステムの構築	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
8. 看護補助業務に従事する看護補助者の業務のうち、5 割以上が療養生活上の世話	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
9. みなし看護補助者を除いた看護補助者比率 5 割以上	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
10. 看護補助者の夜間配置	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
11. 夜間院内保育所の設置と夜勤従事者の利用実績	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
12. 勤務後の暦日の休日の確保（2 交代の場合）、夜勤後の暦日の休日の確保（3 交代の場合）	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
13. 仮眠 2 時間を含む休息時間の確保（2 交代夜勤の病棟がある場合のみ）	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
14. 16 時間未満となる夜勤時間の設定（2 交代夜勤の病棟がある場合のみ）	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>
C. 業務効率化				
1. ICT、AI、IoT 等の活用による業務負担軽減	→	選択してください ▼	<input type="text"/> 人	<input type="text"/>

* ICT・AI・IoT 等の活用による業務負担の軽減とは、記録・報告・集計などの業務時間が削減された（例：入力時間や定型作業時間の短縮が確認できた。）、現場のオペレーションが改善し、業務の重複や無駄が減少したなど、業務負担の軽減に資する取組を指します。これらの取組により、看護職員が総合的に見て効果が認められると評価している場合には、「達成」を選択してください。

—ICT (Information and Communication Technology) : コンピュータや通信技術を活用して、情報の収集・共有・管理を効率化する技術。例：電子カルテ、看護支援システム、オンライン会議など

—AI (Artificial Intelligence) : 人間の知的活動を模倣して、判断や予測、文章作成などを行う技術。例：音声入力、画像解析、記録作成支援

—IoT (Internet of Things) : モノがインターネットを通じて相互にデータをやり取りする仕組み。例：バイタル自動転送、離床センサー、ナースコール連携など

問10. 問9-2で「オンコール体制」と回答した場合

- 設問1、2では、業務未達成の場合、達成のために必要と考えられる人員の増員数（常勤換算値）をご記入ください。
- 設問3では、業務達成の場合、削減できたと思われる人員数（常勤換算値）をご記入ください。
- 設問1～3において、変化がない場合には「0」、わからない場合には、未記入のままで構いません。
- 選択理由や懸念点等がある場合には、ご自由に記載ください。

	達成状況	未達成の場合の増減人数 (常勤換算値)	任意回答
			理由、ご意見（選択理由、懸念点等）
1. オンコール翌日は軽勤務や代休を設定			
2. 実際の対応時間を「労働時間」としてカウントし、労働時間を調整する			
3. ICT、AI、IoT 等の活用による業務負担軽減			

問11. 現在、貴施設で導入している ICT・AI・IoT の種類についてお答えください（複数回答）。

ICT・AI・IoT の導入実績がない場合には、最後の「7) ICT 導入実績なし」を選択してください。

1) 記録・情報管理

- ☐ 電子カルテ ☐ タブレット端末による記録入力（介護記録／看護記録） ☐ スマートフォンによる記録入力
☐ 音声入力／音声認識の活用 ☐ 写真・動画記録（褥瘡・食事・ADL 等） ☐ 電子署名（同意書・重要事項説明）
☐ ケアプラン作成支援ソフト ☐ LIFE（科学的介護情報システム）提出システム
☐ 記録の自動集計・分析（ダッシュボード）

2) コミュニケーション・連携

- ☐ インカム（ハンズフリー通話、PHS、無線機など） ☐ 職員間のチャットアプリ（LINE WORKS、Teams 等）
☐ 多職種連携ポータル（医師・薬局・ケアマネとの情報共有） ☐ 家族向けポータル／オンライン面会システム
☐ テレカンファレンス（オンライン会議、カンファレンス）

3) 介護・看護業務支援

- ☐ バイタルサイン自動連携機器(血圧計・体温計・SpO₂ 等) ☐ 見守りカメラ(ナースコール連携含む)
- ☐ 離床センサー・体動センサー ☐ 排泄センサー／おむつセンサー
- ☐ 服薬支援(服薬カレンダー、残薬管理システム) ☐ インシデント／事故報告システム

4) 勤怠管理

- ☐ 勤怠管理システム(IC カード打刻等) ☐ シフト作成・勤務表自動作成システム

5) 教育・人材育成

- ☐ e ラーニング(介護技術、感染対策、認知症ケアなど) ☐ モバイル学習コンテンツ配信
- ☐ 技能習得 VR／シミュレーションの導入 ☐ 業務マニュアル・動画マニュアルの電子配信

6) その他(自由記述)

- ☐ その他()

7) ICT 導入実績なし

- ☐ ICT を導入していない

問12. 問11で導入している回答があった場合、総合的にみて、日常業務にかかる時間はどの程度、短縮されたと感じますか？

- ☐ 大きな改善効果を感じる: 業務時間が大幅に短縮され、効率が劇的に向上した。
- ☐ ある程度の改善効果を感じる: 業務時間にある程度の短縮効果があり、効率が改善された。
- ☐ あまり改善効果を感じない: 導入前と比べて、業務時間の変化はほとんどない。
- ☐ 改善効果はない: 業務時間の短縮には全く貢献しなかった。
- ☐ 逆に悪影響を感じる: 導入前よりも業務時間が増加するなど、かえって非効率になった。
- ☐ 判断できない/わからない: 導入効果について、まだ十分に把握できていない。
- ☐ その他(自由記述):

問13. 看護職員の需要推計についての意見等ございましたら、ご記載ください。(任意・自由記載)

【ヒアリング調査へのご協力について】

本アンケートの内容をもとに、より詳しくお話を伺うためのヒアリング調査（インタビュー）を予定しております。
ご協力いただける場合には、以下をご記入ください。

施設・事業所名：_____

ご所属・役職：_____

ご担当者名：_____

ご連絡先（メールアドレス）：_____

※記載いただいた情報は、ヒアリングの依頼および連絡以外の目的には使用いたしません。

※必ずしもすべての方にインタビューをお願いするものではありません。インタビューをお願いする場合のみ、
後日、個別にご連絡いたします。